

令和6年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生市立福生第一小学校 第5学年1組

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	93.5%	93.7%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	76.1%	77.1%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	97.8%	91.2%
	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	60.9%	63.8%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	88.9%	89.8%
	他者との協働	107 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、からかったりしていない。	73.9%	73.7%
	学力と関係が深い質問	37 わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。	67.4%	71.1%
		36 目標に向けて、ふだんからこつこつ学習している。	54.3%	61.9%
		116 授業で習ったことは、その日のうちに復習している。	37.8%	47.9%
領域名		学力調査の分析 ○成果 ▲課題		
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を30.4ポイント下回り、(漢字の書き)設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を8.8ポイント下回り、(放送された内容のテーマを選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を2.2ポイント下回り、(カワイルカの特徴をまとめた文の空欄に入る言葉を書く)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を9.5ポイント下回り、(文章の後半部分が始まる段落を選ぶ)設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を36.4ポイント下回り、(上から2桁の概数で表す)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を30.9ポイント下回り、(直方体の縦、横、高さを表した図を選ぶ)設問に課題がある。		
	変化と関係	▲全国平均正答率を21.5ポイント下回り、(伴って変わる2つの数量で、一方を求める)設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を17.0ポイント下回り、(折れ線グラフの傾きが最も大きい時間帯を選ぶ)設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>・国語の漢字小テストに対して努力する姿勢があり、漢字練習を繰り返し、高得点を取る児童が多い。しかし、「言葉・情報・言語分野」の領域の平均正答率は低く、漢字の定着は十分でない。また、接続詞を選ぶことが苦手な児童も多くいることが分かる。</p> <p>・算数では、課題を意欲的に解こうとする姿が多く見られる。一方で「数と計算」の領域では、どの設問においても、全国平均正答率を下回っていることから、概数にすることや、基本的な四則計算の理解が不十分な児童が多くいることが分かる。また、「図形」領域の体積や面積の理解の習得が不十分な児童も多くいる。前学年の学習内容を復習する必要がある。</p>		<p>・国語の漢字小テストの努力を称賛しつつ、時間をおいて復習する時間を取る。繰り返し反復練習することで基本的な文字の習得を目指す。また、語句や言葉の遣い方を指導する授業では、接続詞の用法について丁寧に解説をし、文章を書くときに正しく接続詞を用いることができるようにする。</p> <p>・算数の「数と計算」の領域の単元の導入では、四則計算と概数の処理について復習を行う。「図形」の領域の単元では、具体物を用いてイメージを膨らませながら理解できるようにする。また、その他の単元でも、単元に関連する前年度の学習内容について、授業の始めにミライシートを活用して復習させる。</p>		
4 ミライシートとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	95.6%	(22人/23人中)
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	95.6%	(22人/23人中)